

大正大学 実習4日間の成果報告

10/30

地域密着の駅弁「ぶり丼」など販売へ



来年2月にプロ野球キャンプシーズンで販売が決まった「延岡おひしおぶり丼」を開発した大正大学3年の石澤さん

延岡市で長期実習中の大正大学（東京都）地域創生学部の学生は25日、延岡市のカルチャープラザのべおかで40日間の実習の集大成となる成果報告会を開いた。学生それぞれが決めたテーマから地域課題の解決策や活性化策を提案。和菓子や弁当が実際に商品化されるなど成果を残した。

今で4回目となる地

域実習は1年生7人と3

高千穂町で講義や視察、アンケート調査などを行

た。

報告会は3年生が1人

1テーマ、1年生が7人

で1テーマで発表。使わ

れていない遊休資源を活

用した交通手段の確保や

障害者も楽しめるユバ

ー・サルツーリズムなどが

提案された。

このうち、3年の松本

菜里沙さんは地域資源を

イメージした新たな手土

産の開発がテーマ。印象

的な延岡の清らかな水を

モチーフにすることを決

め、幸町の風の菓子「虎

彦（上田耕市代表）と共に

0円（税抜き）で販売との報告もあった。

一方 地域に密着した「駅弁」に着目した3年の石澤重慶さん。延岡の特産品にチキン南蛮や宮崎牛などがある中で、

魚を主体に勝負していこうことを決め、土々呂町の高橋水産と「延岡おひしおぶり丼」を開発しました。

同様に水まんじゅう（祝子

ぼうり）の珠（たま）

（しづく）を完成させた。

1週間、試験販売した結

果、売り切れが続いた。

コンセプトとパフォー

マンスのバランスや顧客

視点などの学びがあった

といい「多くの方に協力

していただきた」と感謝。

29日から虎彦で1箱60

0円（税抜き）で販売が

決定。駅弁が盛り上がる

ことで延岡が盛り上がる

ことにつながるのではないかと期待を寄せた。

また、1年生グループは市民が文化に触れる機

会を増やそうと「のべおか

カビエンナーレ202

0」と名付けたアートイ

ベント企画。会場とな

る北浦町の下阿蘇ビーチ

に、アーティストの作品

を展示する。アーティス

トと住民が協力して作品

を作り上げることも考え

ているという。

「延岡の資源を再発見

し、観光客と住民が交流

できる機会ができる」と、

実習の受け入れを支援

してきた同大学同窓会南

九州支部の野中玄雄会長は

「県北地域の活性の一助になるよう、表現性

を帯びることを願ってい

る」と話した。

また、25日には延岡市役所で駅弁「延岡おひしお

ぶり丼」と水まんじゅ

う（祝子の珠しづく）の

試食会があり、諒谷山洋

司市長や野中支部長らに

提供された。

扇興タクシーを子会社化



日の丸ハイヤーの子会社としてスタートを切った延岡市別府町の扇興タクシー本社



扇興タクシーの社長に就任した暮部満昭氏(29日)

29日付

10/30 大阪・神戸 日の丸ハイヤーが買収 拠点の老舗 日の丸ハイヤーが買収 社名は従来のまま「さらに発展を」

北摂と呼ばれる大阪市北部、神戸市などを営業エリアとしているハイヤー・タクシー会社「日の丸ハイヤー」(本社・大阪府池田市、暮部満昭社長)が29日、扇興タクシー(延岡市別府町)の株式の約95%を取得して子会社化した。同日前中に臨時株主総会で承認された。子会社化しても社名は変えず、同社は、延岡エリアで親しまれてきた扇興タクシーを「さらに大きくしたい」との方針を明らかにした。

臨時株主総会で株の譲渡と役員改選があり、日の丸ハイヤーの暮部満昭氏(47)が扇興タクシの社長に就任、同ハイヤーの専務取締役の亀本裕之氏(51)が新専務に就任した。扇興タクシー前

社長の村嶋輝一郎氏は相談役に就く。

日の丸ハイヤーは1941年2月、暮部社長の祖父が創業した老舗。大阪国際空港(伊丹空港)近辺と神戸圏域を営業工

業に118台を保有している。扇興タクシーは、後継者を探す中で、県事業引き継ぎ支援センターに相談。今年8月に事業規模拡大を考えていた日の丸ハイヤーと面談し、協議の結果、マッチングが成立した。同社にとっては圏域外に子会社を持つのは初。グループで保有す

り、車両は扇興タクシーの70台と合わせて188台となつた。

M&Aの鉄則で臨時株主総会のあつた29日まで水面下で作業が続いた。従業員、同社組合にも秘密裏の作業だったため、M&Aの鉄則で前経営陣の扇興タクシ

ーに対する熱い思いを感じ、経営を託されたこと

にプレッシャーも感じているとも話した。

暮部社長は、扇興タクシの営業方針について、「基本的に何も変わらない。変わるとすれば

引き継ぐと強調し、大阪総会後暮部社長は社内の不安を払拭(ふつしょく)するためすぐに面

談して説明。暮部社長は、

社名も従業員もそのまま密会の作業だったため、話をする時には不思議だったという。協議をしていく中で、前経営陣の扇興タク

ーの地域性の相乗効果を図つていきたいと話した。亀本専務は「扇興タクシの大島オーナーの強い思いに責任を感じてい

暮部社長によると、

扇興タクシーの業績があ

る。扇興をいい会社のまま、半永久的に続けられるような会社を残していくかといけない使命も感じている」と話した。